



令和5年1月26日

イノベーション推進担当

## 関西健康・医療創生会議シンポジウム

## 「コロナ対策の何が問題だったか」

## 1 趣 旨

このたびのコロナ禍は、ほぼ一世紀ぶりのパンデミックである。日本は、諸外国と比べ人口あたりの死者数をかなり小さく抑えているものの、一方で、医療のデジタル化の遅れをはじめ、既存の社会経済・医療・公衆衛生のあり方についての課題も顕在化した。

例えば、保健所のあり方や検疫・PCR検査の充実、疫学研究の強化、国産ワクチンの開発等は、実は2009年の新型インフルエンザ流行時にも指摘され、対応方針についても一定の整備がなされていたにもかかわらず、十分活用されたとは言い難い。社会・経済活動がグローバルに再起動しつつある現在、今回のコロナ禍を通して得られた知見を活かし、特に生活圏が近接する関西全体で課題解決に取り組む意義は大きい。

このため、関西健康・医療創生会議では、過去3年間のコロナ対策を検証するシンポジウムを開催し、何が問題だったのかを制度的・社会的観点から明らかにするとともに、その解決に向けた提案について議論したい。

## 2 シンポジウム開催内容

- (1) テーマ 「コロナ対策の何が問題だったか」
- (2) 日時 令和5年2月6日（月）13時～15時30分
- (3) 場所 ライフサイエンス・ハブ・ウエスト  
(大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビルディング4階)
- (4) 参加定員 オンサイト100名 オンライン1,000名（ハイブリッド開催）
- (5) 参加申込 以下URLまたは関西健康・医療創生会議HPよりご登録ください（無料）

[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_X2AqfjnXTbuz9gMPBE8KLw](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_X2AqfjnXTbuz9gMPBE8KLw)

## (6) プログラム（敬称略）

- 開会挨拶 関西健康・医療創生会議副議長 橋本信夫  
大阪大学感染症総合教育研究拠点長 松浦善治
- 特別講演 神戸市長 久元喜造
- 問題提起 大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授 大竹文雄
- 一般講演 ・「コロナ対策における専門家の役割」  
東京大学大学院経済学研究科及び公共政策大学院准教授 仲田泰祐  
・「AIによるCOVID-19感染者・死者数分析」  
名古屋工業大学教授 平田晃正
- パネルディスカッション（進行：大竹文雄）  
仲田泰祐、平田晃正、大阪健康安全基盤研究所理事長 朝野和典
- 閉会挨拶 関西健康・医療創生会議議長 井村裕夫